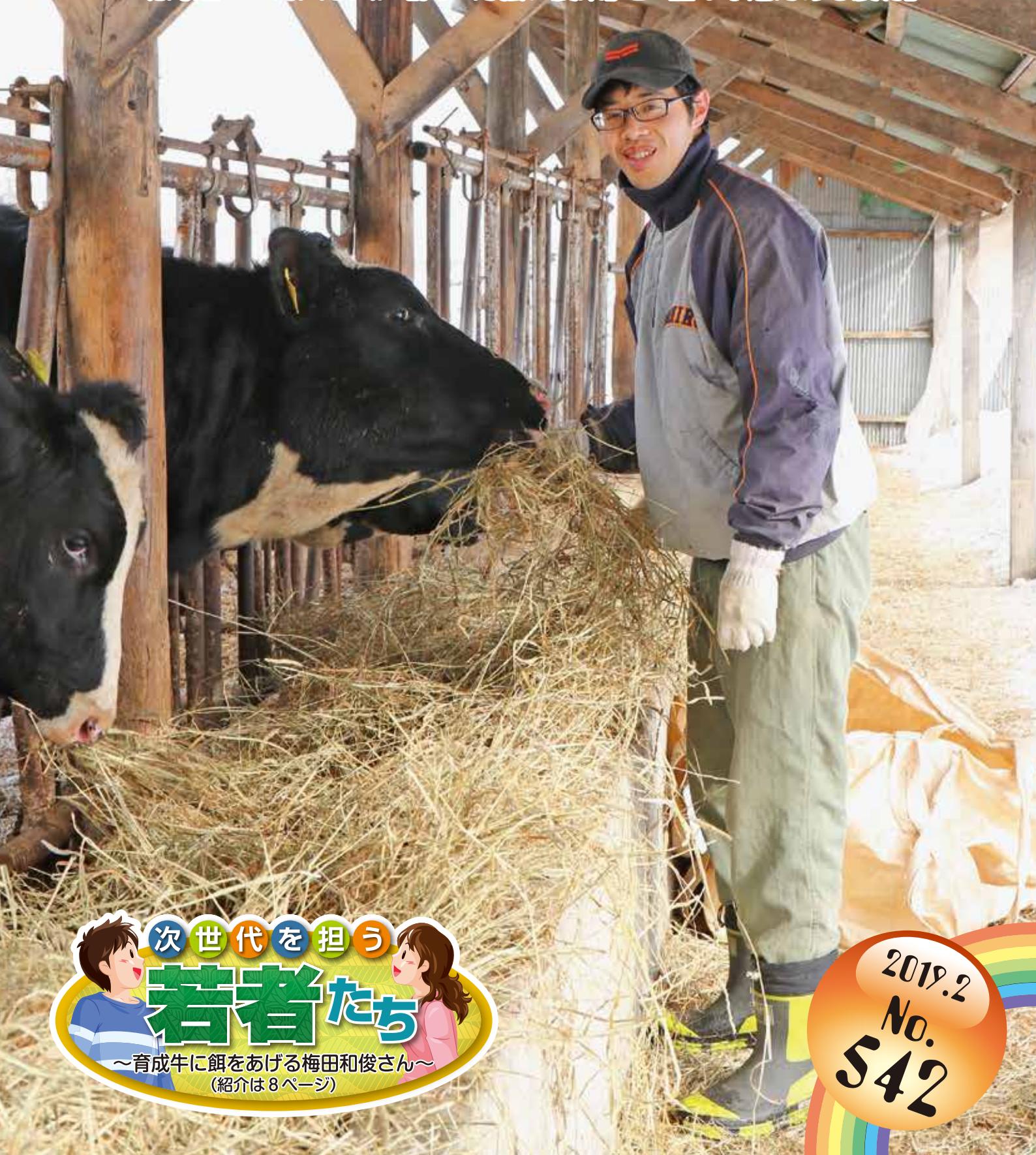


# 光と風の大地

～北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」～



# 組織・地域を担うリーダーづくりを

## ～組合員研修「夢さがし塾」2年目～

組織・地域のリーダー育成を目的とした組合員研修「夢さがし塾」（第2期2年目、羽石規靖団長）を11月27日～12月1日の5日間、組合員、職員13人が参加し、九州方面で研修を行いましたのでご報告致します。

### たかしま農園

（長崎県長崎市高島）

1ヶ所目の研修先は、たかしま農園。周囲6・4kmの島で、平成17年から事業が開始され、それまでの経緯やブランド化への取り組みなど、溝江弘所長と木下静幸事業部長、渕野友規職員からお話を伺いました。

炭鉱で栄えていた高島は、昭和61年の炭鉱の閉山により人口流出が続き、これを食べ止めるため、第三セクターの企業クリーンファームが立ち上げられ、島でトマト事業を展開しました。しかし、2haの規模でスタートした事業も採算が取れず、1haまで縮小、平成16年には市町村合併を機に撤退、それを崎永海岸ですが、島民だけで年間8



高島の歴史、たかしま農園の取り組みについて学びました

**菅里山レストラン**  
（熊本県上益城郡山都町菅  
すげ）  
2ヶ所目の研修先は人口約180人、80世帯が暮らす熊本県上益城郡山都町菅にある菅里山レストランの発足や取



発足当時や取り組みの話をする菅代表

たかしま農園では、「フルースト」というハート形の品種を栽培しており、水や肥料を最小限に抑える栽培方法で一般的には糖度4～5度であるトマトを7～10度まで引き上げ、「たかしまフルーティトマト」とブランド化して販売し、全国にその名を広めています。

また、高島の島民からも「たかしまフルーティトマト」は愛され、宿泊した民宿の方も「たかしま農園のトマトを食べたら他のトマトもう食べられない」と話していました。現在、島民は350人程ですが、島民だけで年間8

00万円程の販売高があることからも地元に愛されていることがとても伝わりました。

事業開始当時は採算が合わなかったことから一時は撤退も考えていたそうですが、一念発起し、ブランド化に向けた職員の意識改革のために、実際に3ヶ月に及び講習会の開催や、毎週長崎県からブランド化に招いて検討を重ね、消費者に分かりやすく、糖度によるランク付けとデザイン化を行いました。

販売も市場に出荷せず、糖度による独自の単価を設定しました。トマトづくりに全力を注ぎ、糖度による品質向上に努めたい」と意欲的な考えを述べていました。

溝江所長は「ロスの少ないトマトづくりに全力を注ぎ、さらなる品質向上に努めたい」と意欲的な考えを述べていました。

夜の懇親会では溝江所長らの他、東日本大震災後に、本州（福島、千葉、神奈川県）から高島に移住した九州で活動する5人のミユージシャン「RA-NBOWMUSIC」のメンバーも参加し、「タカラシマタカラジマ」などの歌が披露され、大いに交流が図られました。

熊本市帯山で始まり、その後の販売促進活動の一環として産地見学会を兼ねた1日ホームステイが菅里山レストランに発展しました。レストランの概要是、農林水産省第1回棚田百選にも選ばれたすばらしい農村景観を楽しみながら、農道や畦道を散策しながら農家の家まで歩き、菅地域の農作物を使った「菅集落の祭事料

全国各地で販売されています。平成31年からは全店舗ではあります。がイオングループでも販売を始める予定です。

平成27年にはハウスを拡大し、現在は1・4haまで面積が拡大、トマトの遊休期間の有効活用としてメロンや二ニクなどの栽培も行っています。

溝江所長は「ロスの少ないトマトづくりに全力を注ぎ、さらなる品質向上に努めたい」と意欲的な考えを述べていました。

年後には集落消滅の危機感から「なんとかしよう。やれる事からやっていこう」を宣言葉に都市農村交流による活性化を目指し、始まりました。

平成8年に休耕田を都市住民へ貸し出す「棚田オーナー」による交流が地元振興会15組でスタートし、平成20年には地元の菜園野菜の産直販売が熊本市帯山で始まり、その後の販売促進活動の一環として産地見学会を兼ねた1日ホームステイが菅里山レストランに発展しました。レストランの概要は、農林水産省第1回棚田百選にも選ばれたすばらしい農村景観を楽しみながら、農道や畦道を散策しながら農家の家まで歩き、菅地域の農作物を使った「菅集落の祭事料

理」を農家の家で交流をしながら食べます。祭事料理は閉校した小学校で農家の女性が作っています。「この取り組みは、開始から年間1,300人～1,800人の来客があり、約8割が県外からの客でリピーターも多いようです。しかし、平成28年に起きた熊本地震後は苦戦しているとのことでした。

菅代表は「今後はジビエ料理を提供することも予定しています。菅地域のより一層の活性化に尽力していきたい」とお話を頂きました。

菅代表は「今後はジビエ料理を提供することも予定しています。菅地域のより一層の活性化に尽力していきたい」とお話を頂きました。

下郷農業協同組合  
(大分県中津市耶馬渓)



下郷農協の歴史や活動について説明をする矢崎組合長



耶馬渓牛乳を使った加工品

県内にあるJAの広域合併の際も、組合員と職員が借り入れをし出資することで合併には加わらないなど、農協に対する思いの強い農協でした。

また、平成27年に全国で初めてJA信連に信用事業を譲渡した農協でもあります。販売事業では、「有機農業宣言の農協」を掲げ、無農薬無化学肥料を基本に、組合員が計画的に生産できるよう、農畜産物は全量買取販売で行っています。主力商品である酪農は、長野県からの移住者が

下郷農協から借り入れをして乳牛を導入したことが発端で、牛乳加工場を持つとともに、耶馬渓牛乳の発祥となっています。近年は畜肉なども始め、食肉加工部門が出来ました。また、若い畜産農家が夢を持て生産できるようにと飲むヨーグルトの加工施設を自己資金で増設しています。

また、地域貢献のために全国でも例の少ない医療事業を行っており、診療所やデイケア施設の運営を行っています。このことから農協が地域と非常に密接な関係を築き上げていると感じました。

矢崎組合長は「農家のための農協。農家に目を向けることが重要であり、農協の発展は地域の発展にもつながる」と、農協の役割を話していました。

## 研修を終えて

研修を終え、参加者からは「トマトに対する熱いこだわりを感じた」「自分たちも生産した農産物を自信を持って出荷していく」と思った」「限界集落だが自分たちのやれる

### ○夢さがし塾参加者

- ・羽石 規靖 (共立地区／理事)
  - ・今橋 賢一 (富丘地区／青年部)
  - ・麻畠 大 (共立地区／4HC)
  - ・田渕 浩基 (豊川地区／4HC)
  - ・沼崎 栄樹 (吉日地区／4HC)
  - ・林 美知子 (岐阜地区／女性部)
  - ・大友 由美 (共立地区／女性部)
  - ・伊藤 江美子 (吉日地区／女性部)
  - ・吉岡 大輔 (岐阜地区／一般)
  - ・近藤 圭介 (豊川地区／一般)
  - ・江田 雅一 (豊川地区／一般)
- ※( ) 内は地区名、敬称略

とを最大限に行い、集落を守ろうとしているところがすばらしい」「すばらしい農村景観の中に、耶馬渓牛乳の発祥となっています。近年は畜肉なども始め、食肉加工部門が出来ました。また、若い畜産農家が夢を持て生産できるようにと飲むヨーグルトの加工施設を自己資金で増設しています。

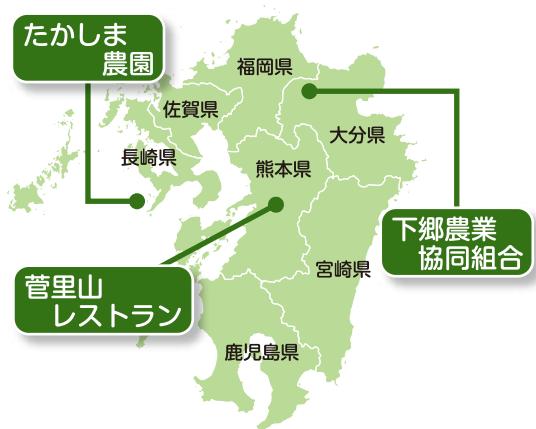
また、地域貢献のために全国でも例の少ない医療事業を行っており、診療所やデイケア施設の運営を行っています。このことから農協が地域と非常に密接な関係を築き上げていると感じました。

矢崎組合長は「農家のための農協。農家に目を向けることが重要であり、農協の発展は地域の発展にもつながる」と、農協の役割を話していました。

驚嘆する声が上がりました。幅広い年齢、地域の組合員が一堂に会し、常呂町ではない新たな取り組みを通じて様々な手法を学び、行程の中で交流を通じた今回の夢さがし塾は、これから農業活動に非常に有意義となる研修となつたのではないかでしょうか。



夢さがし塾に参加した皆さん(菅里山レストラン)



# 豆類の流通過程を学ぶ



● 各国の豆類についての説明を受けました



● 道外視察研修に参加した皆さん(谷尾食糧工業株)

常呂町小豆生産組合（林靖士組合長）は12月3日～6日の4日間、小豆生産組合役員による道外視察研修を行い、林組合長含め7人の役員が参加しました。

小豆の取引先である湊商事（株）と谷尾食糧工業（株）に訪問しました。湊商事では、取り扱っている豆類の倉庫（川西倉庫）を視察しました。豆類の流通の現場をどのように取引先に生産物が流れいくのか目の当たりにしました。

谷尾食糧工業（株）では、林組合長より平成30年産の小豆の品質などの作柄を説明し、さらなる安定生産に向け、輪作体系構築のため、適正な面積の維持、拡大に向けた活動を行い、土壤診断を活用した適正施肥、適期播種、圃場観察を重視した適正な防除など、こだわり栽培（YES!－－ea－－栽培）を取り組んでいます。今後に向けての活発な意見交換が行われ有意義な視察研修となりました。

# ポテトチップ製造作業を体験

## 自治区保育所へ ぜんざいを提供

JJAといづ（川上和則組合長）は、地産地消・食農教育への取組みの一環として、12月21日に北見市常呂自治区内の保育所へ、常呂産小豆を使用した「ぜんざい」の提供を行いました。

当日は、川上組合長が常呂保育所を訪問し、園児と共におやつの時間を過ごしました。配布された南瓜入りぜんざいを食べた園児は、「すくべ甘い」と笑顔で話し、「とても美味しかった！」と元気な声でぜんざいをたくわん食べてくれました。



● ぜんざいを食べている園児を見つめる  
川上組合長(中央)

常呂町加工馬鈴薯生産組合（林健志組合長）は12月5日～8日、役員視察研修を実施し、カルビー（株）ポテトチップ製造工場2ヶ所を訪問しました。1ヶ所目は、当組合の原料が約半数出荷されている西日本事業本部の工場、カルビー株鹿児島工場を視察し、工場内見学及び担当者との意見交換を行いました。

2ヶ所目は、栃木県宇都宮市内にある東日本事業本部の両工場とも視察当日には内原料が使用されており、役員は真剣な眼差しで情報交換や工場内の作業工程を見学していました。今後も良品質な原料を継続的に供給していくことを再確認しました。



● 道外視察研修に参加した皆さん(鹿児島工場)

認することができた実りのある役員視察研修となりました。

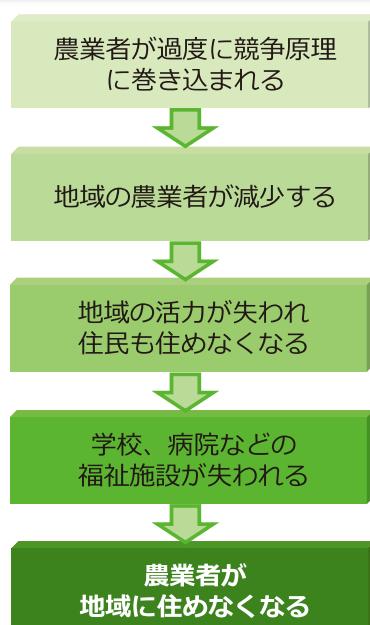
## JAに集う意味

Vol.  
5

～一緒に考えてみませんか?～

- 株式会社は利潤という経済的な側面を追求した組織であるが、そこには地域・生活という視点が不足している。
- JAが設立された当時の経済的弱者であった農業者の生活・地位向上させる観点から、今後の少子高齢化、情報化、消費形態などの環境変化を捉えながら、「豊かな地域社会」や「福祉のある地域社会」づくりに寄与することがJAの今日的使命であり、このことが組合員の営農と生活を豊かにする。
- ⇒組合員一人一人が運営者として実現していくことが地域と個人の利益につながる。

## 地域・生活の視点で考える



## 海外の事例から考える①

ライファイゼンは19世紀、「村のお金は村に！」をスローガンに農村信用組合を組織した。

こうした精神はライファイゼン・バンクとなった現代でも引き継がれている。

## JA綱領から考える

～わたしたちJAのめざすもの～

わたしたちJAの組合員・役職員は、…。  
そして、地球的視野に立って**環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります**。さらに、…。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

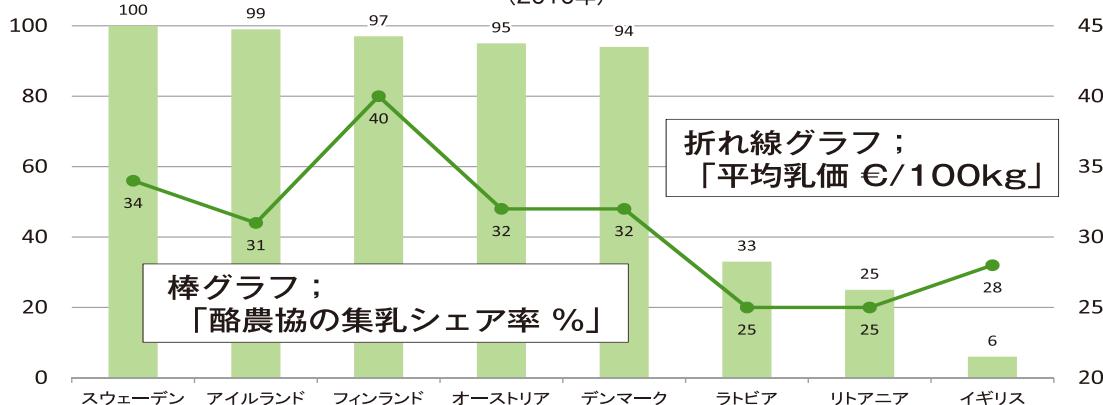
わたしたちは、

- 一、地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 二、環境・文化・**福祉への貢献**を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 三、JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 四、自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 五、協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

## 海外の事例から考える②

- 我が国における生乳の指定生乳生産者団体制度による一元集荷・多元販売は、農協の原点と言えるものであるが、EUにおいても、農協の集乳シェア率が高い国ほど、乳価が高い傾向がある。
- EUにおいては、生乳の計画生産制度を廃止したことにより生産者の価格交渉力の弱さが課題となり、EUにおいて農協の設立を支援している。
- 一方で、非農協出荷者の乳価は、農協出荷乳価との比較で決まるため、農協共販率の高い国ほど非農協出荷者の乳価も高くなる傾向がある。

EUの生乳共販率と乳価の比較  
(2010年)



出典：Support For farmer's Cooperatives



# JA職員長期勤続者表彰



J.A本部事務所の仕事始めとなる1月7日に、役職員が出席した新年交礼会が行われ、3名の長期勤続者が表彰されました。

## 〈40年表彰〉



**鈴木 英夫**

昭和53年7月1日採用

## 〈20年表彰〉



**高橋 誠**

平成10年7月1日採用

## 〈10年表彰〉



**古川 麗**

平成20年7月1日採用

1月号で記載した内容に誤りがありましたので訂正致します。

**〈訂正とお詫び〉** P12 玄年職員紹介 誤：生産部 営農推進室 石井模一郎 ⇒ 正：営農推進室 石井模一郎  
ご愛読頂いている皆様にご迷惑をお掛けしたことを心からお詫び申し上げます。今後も引き続き「光と風の大地」をよろしくお願い致します。

## うえる通信

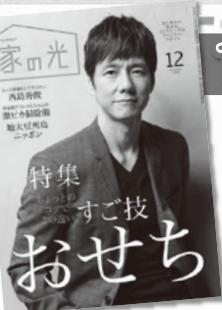
平成27年に本町で農業研修を行い、ファーマーズハウスうえるに滞在していた平岩純さんから晩生みかんが送られてきました。いただいた晩生みかんはとても甘く、酸味も残っており、職員一同で美味しくいただきました。



読まずには  
いられない!  
新10連載  
スタート!!

家の光

定価(税込) ●普通月号 617円  
●付録月号(1・4・5・7・9月号)906円  
●家計簿付き12月号 1,008円



12月号から誌面を大幅リニューアル!

フリー特集を毎号3本

地大豆列島ニッポン

地大豆列島ニッポン

地大豆列島ニッポン

地大豆列島ニッポン

地大豆列島ニッポン

地大豆列島ニッポン

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

地大豆列島ニッpon

手芸・健康の  
ミニ特集を  
毎号掲載!

年6回別冊付録付き

をぜひご購読ください!

お申し込みはお近くのJAへ JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>



## 第11回理事会報告

1. 平成31年度内部監査計画の策定について  
原案の通り策定することで承認されました。
2. (規約付属書) 監事監査規程の一部改正について  
原案の通り一部改正し通常総会に付議することで承認されました。
3. 給与規程の一部改正について  
原案の通り一部改正することで承認されました。
4. 職制規程の一部改正について  
原案の通り一部改正することで承認されました。
5. 小麦(きたほなみ)の補償金の支払いについて  
原案の通り補償金の支払をすることで承認されました。

6. 北海道胆振東部地震被害に対する見舞金の支払いについて  
原案の通り見舞金の支払をすることで承認されました。
7. 資金貸付に伴う農協と理事の契約について  
原案の通り貸付することで承認されました。
8. 組合員の出資金譲渡について  
原案の通り出資金譲渡について承認されました。

〈報告事項〉

1. 第3四半期監査報告
2. 貸付金利の変更について
3. 平成29年産共計でん粉の本精算について
4. 平成29年産共計小麦の本精算について
5. 平成30年産小麦の追加精算について
6. 組合員の加入・脱退・移動について
7. 農業委員会開催結果について

## 行事予定表

2月1日(金)～2月28日(木)

2月 2日(土) 閉組日	2月15日(金) 常呂町種馬鈴薯生産組合通常総会
2月 8日(金) 常呂町農業担い手受入協議会総会	2月16日(土) 閉組日
2月 9日(土) 閉組日	2月18日(月) 第1回定期理事会
2月11日(月) 建国記念日	2月23日(土) 閉組日
2月12日(火) 農業試験成績報告会・技術情報交換会	2月24日(日) 農休日
2月14日(木) 第68回青年部通常総会	2月26日(火) 地区別懇談会～2/27日



### 応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えの番号と広報誌へのご意見・ご感想を記入の上、FAXにてご応募下さい。  
抽選で、1名様に帆立屋しんやの“ほたて詰合せ 北の帆立”をプレゼントします。

### 先月の当選者・解答

1月号のクロスワードパズルの答えは「コママワシ」でした。  
抽選の結果、次の方が当選しました。おめでとうございます。  
小林 純子さん(共立) 大江 美恵子さん(共立)  
近藤 凜香さん(豊川) ※( )内は地区名です。

# まちがい探し

右のイラストには左のイラストと違う部分があります。間違っている部分を左下の枠内の数字を探し出しちゃう。

### 読者の声

★クロスワードパズル面白かったです！

(匿名希望)

★写真がたくさん載っていて良かったです。

(匿名希望)

## 土佐地区(有)マルコ小林産業

# JGAP認証を取得!



JGAP認定登録証を手にする小林さん

小林さんは約3年前からJGAP認証の取得を目指してきましたが、忙しい毎日を送る中で、思

いと作りこんでおくことで、長期的に見て効率化できる。奥さんにも手伝ってもらつたよ（笑）

小林さんがGAPを実践するきっかけとなつた分、十分な準備を整えて審査に臨むことができた。このことはより良い農場管理につながった」と、

小林さんはこれまで農業を営んできた中で生じた疑問からでした。それは、自分が生産した農産物の安全性を問われたとき、根拠となるものを示すことができるか?というものです。

「食べる物はいのちを作るもの。安全で安心していただくために、その裏付けとしてGAPを実践し、第三者からの認証を得るのは大切なことだとお忙しいところ、ご協力いただきましてありがとうございました！」

GAPに関するご質問などがありましたら販売課古川・営農企画課樋渡へお問い合わせください

### 編集後記

- 先日、土佐地区で開かれた麻雀大会に参加してきました。普段話す機会が少ない農家さん、関係機関の方と交流が図ることができて、とても勉強になりました。
- 最近は、本格的に冷え込むことも多くなってきました。インフルエンザは、1~3月がピークに流行すると言われていますので、皆さん感染しないよう、予防に努めてください。

《営農企画課：広報担当》

### 次世代を担う 若者たち



なついて離れない  
野良猫を抱く梅田さん

### 育成牛に餌をあげる梅田和俊さん

新シリーズ！今月号からは次世代を担う若者たちをテーマに常呂町4Hクラブの方々に取材を行っていく予定です。

第1回目は、岐阜地区的酪農家、梅田和俊さんです。育成牛に餌をあげているシーンを撮影させてもらいました。

これからの目標について聞くと梅田さんは「両親を楽にさせることができるような経営をしていきたい、そして規模拡大を目指し、安定的な経営をしていきたい」と話してくれました。

牛の飼育作業中にも関わらず、撮影にご協力いただきましてありがとうございました。